



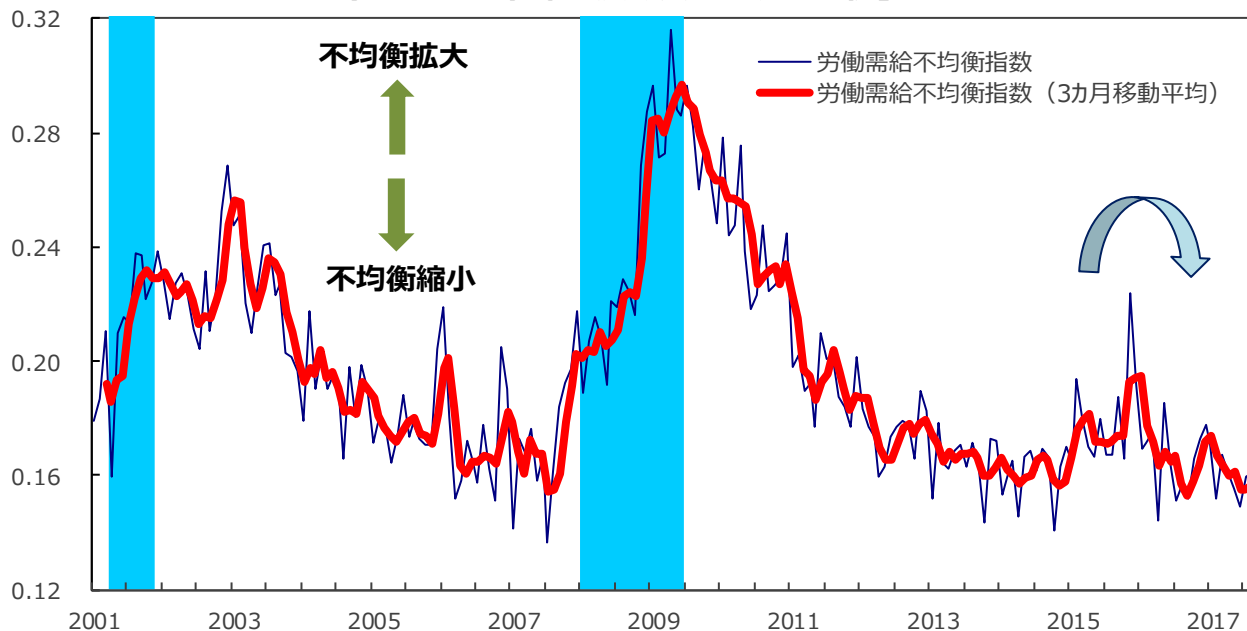
## Q 米国の景気拡大はいつまで続くの？ (2)

**A** 米国の労働市場では、需要（求人数）と供給（求職数）の間に不均衡は生じていません。米国が近く景気後退に陥る可能性は低いと考えられます。

- 景気後退とは、財市場や労働市場、金融市場で生じた「需要と供給との間の不均衡を調整する局面」といえます。
- このうち労働市場における需給の不均衡を示す指標に、労働需給ミスマッチ指数があります。これは、企業の求人数（労働需要）と求職数（労働供給）のかい離の度合いを主要業種ごとに測定、統合し、指数化したものです。
- 求人数の統計が遡れる2001年以降では、労働需給ミスマッチ指数が上昇に転じると、つまり労働需給の不均衡が広がると、間もなく景気後退に陥っているのが見取れます。
- 同指数は、2015年に上昇しましたが、16年の年初には再び低下、以後は概ね14～15年頃の低い水準で推移しています。米国景気が近い将来、景気後退に陥る可能性は低いといえます。

(ポイント)

【米国の労働需給ミスマッチ指数の推移】



(注1) データは2001年1月～2017年8月。網掛は景気後退期。

(注2) 労働需給不均衡指数は、企業の欠員数と求人数とのかい離の度合いを見たものです。対象は米労働省分類による12業種（政府を含む）。かい離が大きい（不均衡指数が上方へいく）ほど、労働需給の不均衡が広がっていることを示します。

(出所) 米国労働省および商務省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。